

TOPIC

1

国立駅南口駅前広場ワークショップ&社会実験

くにたちえきひろ大学がスタートしました！

現在、国立駅南口駅前広場の*基本設計が進められています。このたび、市民の皆さまや通勤・通学で国立駅を利用されている方、国立駅に愛着をお持ちの方など、多様な方を対象に、自分ごとで駅前広場について考え、ご意見をいただく場として「くにたちえきひろ大学」がスタートしました。

*基本設計 | 整備の基本的な内容を図面で明らかにすること

「くにたちえきひろ大学」とは

国立駅南口駅前広場整備に向けた市民参加型のワークショップと社会実験。3回のワークショップと社会実験を通して、さまざまな視点から駅前広場について議論し、そして実験を通して駅前広場についてみんなで考える場です。

語ろう
試そう
考えよう

くにたち
えきひろ
大学

くにたちえきひろ大学のすすめかた

くにたちえきひろ大学は、全3回のワークショップと社会実験のプログラムです。ワークショップは、各回それぞれにテーマがあり、テーマに基づいた視点でのゲスト講演や意見交換を行います。全3回のワークショップ終了後は、各回のワークショップでいただいた意見を基に、社会実験を行います。

ワークショップ1 2024(令和6)年7月14日実施

「駅前広場のみどりから100年後を考える」

地形・土壌・気候・動植物など「みどり」を中心にさまざまな視点から、未来の駅前広場について考えるグループワークを行います。

ワークショップ2 2024(令和6)年8月10日実施

「駅前広場のさんぽから日常を考える」

日常の利用、ぶらり、インクルーシブなど様々な視点から、駅前広場の日常について考えるグループワークを行います。

ワークショップ3 2024(令和6)年9月8日実施予定

「駅前広場の活動からわたしを考える」

公共の場に、自分事として関わることなど、活動を中心に駅前広場の利用について考えるグループワークを行います。

社会実験 2024(令和6)年11月実施予定

「駅前広場を居場所にする
グリーン・ファニチャー・アクション」

各ワークショップでいただいたご意見・ご提案を基に社会実験(実際に国立駅南口広場で実験する試み)を行います。

ワークショップでいただいたご意見について

ワークショップでいただいたご意見は、まとめを皆さまに見える化していくとともに、11月の社会実験、また可能な範囲で基本設計に反映してまいります。



第1回ワークショップを実施しました！

2024(令和6)年7月14日(日)、第1回ワークショップ「駅前広場のみどりから100年後を考える」を実施しました。参加者の皆さまで駅前広場の現地を確認した後、ゲストの株式会社フォルク代表取締役の三島由樹さんより講演いただき、基本設計事業者チームとのトーク、その後、グループごとに意見交換を行いました。

開催実績

【日時】2024(令和6)年7月14日(日)13:00～16:00

【場所】国立駅前くにたちこくぶんじ市民プラザ

【参加者】34名

小学生から高齢者まで
多様な方々に参加いただきました！



①現地確認



②ゲスト講演



③基本設計事業者チームとのトーク



④意見交換

意見交換「くにたちのまちのこれまでの100年からこれからの100年を考えよう！」

「くにたちのまちのこれまでの100年からこれからの100年を考えよう！」というシートを用いて、みどり、道路交通、暮らし文化の視点から、くにたちの未来年表づくりを行いました。また、年表で出た意見をもとに「こんなひろばになったら良いな」と思うことについて意見交換しました。



▲未来年表づくりの模造紙



▲「こんなひろばになったら良いな」の模造紙

いただいたご意見の紹介（一部抜粋）

各グループ、白熱した意見交換が行われ、みどり、道路交通、暮らし文化の視点における、次の100年という長いスパンで考え、多様なご意見をいただきました。いただいたご意見の一部抜粋と、ポイントを紹介します。

▼「くにたちのまちのこれまでの100年からこれからの100年を考えよう！」意見一部抜粋

	みどり	道路交通	暮らし文化
～2060	・みどりと交通が一体的な魅力になる ・「人が手を入れる」から「人が手を添える」へ ・食べられるストリートがある	・車の量が少なくなる ・車社会から自転車社会になる ・円形公園が人のために日常利用されている	・自由に音楽ができる駅前になる ・通学路など、安心して行けるところにトイレがある ・駅前広場で祭りやマルシェが行われている
～2090	・自然の音が聞こえる ・みどりが私物化されている ・みどりの大切さが伝わり続ける	・自動運転化が進み、横断歩道がいなくなっている ・エネルギーシェアに対応したロータリーになっている ・自動運転に対応した道路活用がされている	・交流人口が増えている ・防災拠点になっている ・発表の場としても使えるようになっている
～2120	・人と動物が共存する自然の動物園になっている ・みどりで2℃気温が下がっている ・原っぱではなく、駅全体が公園のようにになっている	・駅がなくなり、「旧駅前」になっている ・モビリティは空へ ・移動は自動運転の新交通が主流になる	・広場に人と人、人と自然、人と音楽が交わっている ・駅前が目的地になる ・学園都市の基地になっている

POINT 車の量が減り、みどりが増え、駅前が公園のように利用される未来

各グループとも多様な意見が出ましたが、共通した意見としては、将来は車の量が減り、駅前広場は人が過ごす場として公園ようになっていく、ということです。みどりを自分たちの手で維持管理していくコミュニティがあるということや、防災の拠点となることも、意見としてあがっていました。

意見のまとめの全体は国立市 HP でご覧いただけます。

